

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.653

★「上野の森 親子ブックフェスタ」開催へ (2頁)

★「野間読書推進賞」受賞者の活動報告 (5頁)



撮影：志田三穂子

「こどもの読書週間」によせて

次の100年との境界線に立つて

絵本評論家

ひろまつゆき
広松由希子

私が絵本と時代の関係を強く意識するようになったのは、2011年の東日本大震災と原発事故がきっかけだった。絵本は子どもに希望を伝えるものという、大前提が揺さぶられる気がした。震災以降の絵本表現について定観測を始める一方で、絵本史の変遷を見直したいと思った。

同じころから海外の仕事も増えた。ブックフェアや国際審査などの場で未知の絵本表現に出会い、比較しながら日本の絵本を俯瞰して見る機会に恵まれた。時間を縦軸、空間を横軸に、いまの日本の絵本を捉え直せたらと考えていた。そんな折 日本の絵本についてまとめてみないかと依頼をいただいた。近現代のこれぞという絵本を選び、歴史が緩やかに

に浮かびあがるようにビジュアル主体で編めたらおもしろいのではないかと、無謀にも思ってしまった。だれより自分がそんな本をほしかったのだ。

同じころから海外の仕事も増えた。ブックフェアや国際審査などの場で未知の絵本表現に出会い、比較しながら日本の絵本を俯瞰して見る機会に恵まれた。時間を縦軸、空間を横軸に、いまの日本の絵本を捉え直せたらと考えていた。そんな折 日本の絵本についてまとめてみないかと依頼をいただいた。近現代のこれぞという絵本を選び、歴史が緩やかに

悩んだあとは、時代の大きな流れと外せない作家を押しえつつ、その作家の本質が表れていると私が感じる作品、この絵本でこの作家を語りたいと思える作品を選んだ。

悩んだあとは、時代の大きな流れと外せない作家を押しえつつ、その作家の本質が表れていると私が感じる作品、この絵本でこの作家を語りたいと思える作品を選んだ。

海外で出版されたおもしろな絵本を可能な限り盛り込んでいる。そしてこの本をたたき台に、読者一人ひとりの絵本リストを作ってもらえたらうれしい。

海外で出版されたおもしろな絵本を可能な限り盛り込んでいる。そしてこの本をたたき台に、読者一人ひとりの絵本リストを作ってもらえたらうれしい。

*筆者注 拙著を購入されたミュージシャン・谷口マルタ正明さんのtweetより

今年こそは……
と祈りながら、

上野の森 親子ブックフェスタ

開催準備、
進んでいます！

2000年の「子ども読書年」にスタートし、春の読書推進イベントとして定着した「上野の森親子ブックフェスタ」ですが、新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながらこの2年間はリアルイベントとしての開催は見送りとなってしまいました。

そして今年2022年、子どもの読書推進会議、日本児童図書出版協会、一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）の主催3団体では、万全のコロナ対策を施したうえで、満を持して開催を準備しています。

会期は5月3日（火・祝）〜5日（木・祝）、会場はおなじみの台東区・上野恩賜公園 中央噴水池周辺です。

例年どおり、児童書版元の出版による読者謝恩価格のブックセールを中心に、人気作家のサイン会、平田昌広さん・景さんによる「まっさんといちちゃんのことばあそび絵本ライブ」、絵本専門士ユニット Peak a boo による「0歳から楽しめる手遊び&おはなし会」などの楽しい読者交流イベント、協賛社によるアトラクション、講演、談話協力による「全国訪問 おはなし隊 in 上野公園」（予定）などのイベントを計画しています。ま

た今回の新機軸としてはSDGsをテーマに、関連本の展示・販売を行います。

新型コロナウイルス感染症対策としては、入場時の検温・消毒を徹底します。会場内は密にならないよう通路の幅も十分に確保し、必要な場合には入場制限を行います。また接触の機会を減らすため、書籍購入時のレジでの精算は図書カード・クレジットカード・交通系電子マネー・QRコード決済に限り、現金はご使用いただけませんのでご注意ください（会場内で図書カードの購入が可能です。ただし、こちらは現金精算のみ）。

なお、現在実施中のお手持ちの磁気式図書カードで図書を購入すると、抽選で総額500万円の図書カードネットギフトが当たるキャンペーン（主催：日本図書普及株式会社）の対象にもなっています。

このほか近隣の都美術館講堂などの施設では文字・活字文化推進機構、絵本文化推進協会など多くの団体と連携した、読書推進に関する講演会を開催予定です。

フェスタの詳細な内容はJPICホームページ内の「上野の森親子ブックフェスタ」特集ページをご覧ください。

<https://www.jpic.or.jp/ueno/>

「第33回 読書感想画中央コンクール」表彰式

「休校、自粛の日々でも、
本のなかでは自由な世界！」

2月25日（金）、第33回読書感想画中央コンクール表彰式（主催：公益社団法人 全国学校図書館協議会／毎日新聞社）が、オンライン配信形式で3年ぶりに開催された。

小学校〜高校まで5652校からの、58万3797点の応募作品より、文部科学大臣賞の4名をはじめ、計32名の上位表彰者が、作品とともに紹介された。

れいで、元気が出る明るい作品。宇宙人と本当に会うのはちょっと怖い気もするけど、濱さんの描いた宇宙人となら、きつと楽しくなる」と、お祝いと感謝を送った。また、「コロナ禍でも子どもたちの表現活動の場が設けられていることはとてもすばらしいこと」とも述べた。

「受賞者代表のことば」は、小学校低学年の部 文部科学大臣賞の濱咲那依さん（愛知県岡崎市立連尺小学校1年）。「宇宙人がいた」（やまだともこ・作 いとうみき・絵／金の星社）の感想画を描いた濱さんは、「いろいろな想像して描きました。本を読むと本の世界が頭に浮かんできます。私も本の世界に入っているようで、いろいろな気持ちかわいてきます。コロナで大好きなことができないけれど、本のなかではコロナは関係ありません」と語った。

対象図書は、「色使いがとてもきれいな本」と述べた。

■「2022 えほん50」発表

昨年1年間に刊行された絵本の 推薦リスト

全国学校図書館協議会(全国S L A)は、推薦絵本リスト「2022 えほん50—全国S L A絵本委員会選定(協力子ども読書推進会議)」を発表した。

このリストは、2019年から毎年選定、発表されている。今回は2021年1月から2021年12月までに刊行された絵本より、全国S L A絵本委員会が「ぜひ子どもたちに読んでほしい」と推薦

する50冊が厳選されている。

リストはPDFとエクセル形式のファイルが用意されており、全国S L Aのホームページからダウンロードが可能。絵本ごとに目安となる対象学年も記載されている。また、推薦絵本の書影と内容紹介が入ったリーフレットのPDFもダウンロードできる。

全国S L Aでは、保育所、幼稚園、学校、家庭、地域などで活用

■NPOブックスタート 写真コンテスト開催

赤ちゃんを読み手の写真で 「シェアブックス」を体感!

NPOブックスタートは、「いっしょにえほん 写真コンテスト2022」を開催する。

このコンテストは、NPOブックスタートが掲唱する、赤ちゃんを読み手が、一緒に絵本を開くことで楽しさや安らぎを共有する「シェアブックス」の普及を目的としている。絵本を開く親子や家族などの姿をInstagramに掲載し、絵本という媒体が備えている

豊かさを伝えたいと、企画された。

募集するのは、赤ちゃんや子どもとの絵本のひとときや、その思い出の写真。投稿写真についての100字程度のひとこと、エピソードを添えることが必要。

募集期間は4月20日(水)～5月22日(日)まで。結果発表は6月末を予定している。各種SNSにコメントハッシュタグ「#いっしょにえほん 写真コンテスト2022」



「2022 えほん50」リーフレット

してほしいとしている。

●全国S L Aホームページ内「えほん50」紹介ページ
<https://www.j-s.l.a.or.jp/recommend/ehon50.html>



「絵本と過ごすひととき」を募集!

と、NPOブックスタートアカウンツ名をそえて投稿する。

選者は現在調整中。賞品は写真入りの図書カードなどを予定している。詳細は4月20日にNPOブックスタートウェブサイトで発表される。

●NPOブックスタートウェブサイト
<https://www.bookstart.or.jp>

■伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」贈呈式開催

コロナ後の子どもたちを支える 大きな力を応援

公益財団法人 伊藤忠記念財団は、3月9日(水)、東京都港区の伊藤忠本社ビル会議室にて、「2021年度子ども文庫助成贈呈式」を開催した。感染症防止対策として、会場での参加は東京都内の受領者と一部関係者とし、ライブ配信の形で全国の受領者は参加した。

同財団の鈴木善久理事長はあいさつで、子どもたちの居場所づくりとそれを支える人たちを支援する姿勢をあらためて表明した。

選考委員長の島弘さんは、活動の順位付けではなく、助成の必要度、継続性を鑑みての選考であると説明し、「コロナで子どもたちの生活、学びに負の影響が出ている。コロナ後、みなさんの活動が大きな力となります」と語った。

受領者代表は、東京在住で、月数日、静岡県伊東市の「沙羅の木文庫」を開いている、西村敦子さん。コロナ禍などで弱気になっていたが、「伊東に本のある子ども居場所を」という地元の人声に、小学校の近くでの分室

設置に助成を活用すると、語った。

今年から助成対象となった特別支援学校を代表して、都立光明学園の田村康二朗 統括校長は、本来、公費で子どもたちの環境を整えるべきとしながら、特別支援学校の生徒は年々増えているにもかかわらず、ハード、ソフトの面での整備が遅れていること、そのなかでも工夫しながら読書環境を維持してきた苦労を紹介した。

子ども文庫功労賞受賞者は、オンラインでの参加。大阪府の岩田美津子さんは「点字付き絵本を出版流通に乗せたいと働きかけ、出版に繋がった。この受賞をきっかけに、さらなる働きかけを目指したい」。岩手県の高橋美知子さんは「伊藤忠記念財団は、行政ではできない支援をしてくれる。そこからの賞をいただけるのは、ほんとうにうれしい」。愛知県の大渡満州子さんは「未来を担う子どもたちに本を手渡すのが、私の仕事。今後も前を向いて、さらに歩んでいきたい」と、これまでの歩みとともに、それぞれ語った。

■「第7回 JBBY賞報告会」開催

作家たちのスピーチが YouTubeで視聴可能！

一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY) は、3月5日土、「第7回 JBBY賞 報告会」を、オンラインで開催した。

この賞は、国際児童図書評議会 (JBBY) の国際アンデルセン賞・オナーリストをはじめとする国際的な賞に、JBBYが推薦した図書および作家に贈られるもので、隔年で開催されている。第7回は2021年に受賞者・者を発表していたが、感染症拡大により贈呈式などは延期となっていた。

【第7回 JBBY賞】(敬称略)

●作家の部門
富安陽子

●画家の部門
田島征三

●文学作品の部門
梨屋アリエ/ポプラ社

●「きみの存在を意識する」
イラストレーション作品の部門
たむらしげる/偕成社

●「よるのおと」
翻訳作品の部門
西村由美/岩波書店

●「青い月の石」

●バリアフリー図書の部門
村中李衣/石川えりこ/童心社

●絵本原画の部門
きくちちき/小峰書店

報告会では、受賞作家のメッセージを紹介。田島征三さんは手書きのメッセージを、梨屋アリエさんは手話付きのビデオメッセージをよせた。また、村中李衣さんと石川えりこさんは、ふたりでかけあひながらのスピーチで、バリアフリー絵本への考えや思いを語った。

JBBYは公式YouTubeチャンネルを開設。現在、「JBBY賞報告会」のほか、会員の翻訳家・研究者らによる、「JBBYオナーリスト作品の紹介」、「翻訳家が訳書を紹介!」『おすすめ! 世界の子どもの本』などを見ることができ。

●JBBY 公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/c/JBBYkodomonohon>

■ちひろ美術館・東京 春の展覧会

いわさきちひろ、エリック・カール ほか、人気絵本の原画を展示

ちひろ美術館・東京 (東京都練馬区) では、「幼い日に見た夢 いわさきちひろ展」「エリック・カールとアメリカの絵本画家たち」のふたつの展覧会を、6月19日(日)まで開催している。

「幼い日に見た夢」は、いわさきちひろの幼少期に焦点をあて、子ども時代の思い出を描いた作品を紹介。あわせて、ちひろが少女時代に感銘を受けた、大正時代の

絵雑誌を支えた、岡本帰一、初山

滋らの絵も展示されている。

「エリック・カールと」は、昨年亡くなったエリック・カールの人生と絵本、ちひろ美術館との関わりと、アメリカの絵本賞「コー

ルデコット賞」受賞画家たちの作品を展示。モリス・センダック、マーシャ・ブラウンなど日本でも人気の作家だけでなく、日本では未翻訳の作品もあり、アメリカの

■別冊「2021年第75回『読書週間』行事報告」一覧

割愛した一部行事の内容説明を 紹介します

本紙別冊「2021年第75回『読書週間』行事報告」で、一部説明を割愛した取り組みがありますので、ここに説明を補足します。

●「一日司書」

カウンター業務、資料の配架などの図書館業務を体験する。子どもが対象の場合は、図書館利用法の説明をすることもある。

●「ぬいぐるみのお泊まり会」

子どもたちがぬいぐるみと一緒に

におはなし会に参加。その後、ぬいぐるみを図書館が一晩預かり、翌日返却。図書館でのぬいぐるみの様子の写真や「ぬいぐるみを選んで本」を子どもに渡す。

●「本の福袋」「ラッキーバッグ・ブック」など

タイトルがわからないよう、図書を袋やバッグにつめて貸し出す。各袋ごとにテーマが設定されており、3冊程度が入っている。



人気絵本の原画も展示されている
マーク・シメント『はなをくんくん』
(福音館書店) より 1949年

絵本の多彩さを実感できる。
開館時間など詳細は同館ホームページを「ご確認ください」。

●ちひろ美術館ホームページ
<https://chihiro.jp/>

袋づめせず、1冊ずつ貸し出すこともある。袋にはテーマと内容のヒント(内容紹介や職員の推薦文、冒頭の一文など)が明示される。

●「図書館「なぜ解き」イベント
ひゃっか王の挑戦状」

「図書館にかくされた宝物を探せ!編」「まちがいたらだけのひゃっかじてん!編」のなぞなぞ問題集2冊を参加者に配布。参加者は図書館資料と「ポプラーディア」を使って答える。参加者、正解者にはひゃっか王グッズや図書館オリジナルグッズを進呈。対象は小学校中学年以上。

■野間読書推進賞受賞者の活動報告

再開に備えて ことばと物語と、疑問の日々

青森市読書団体連絡会 会長 西村恵美子

「おはなし」と「本」を届けて！

戸惑いながら過ぎた月日を省みたら、なにかしらいままで見えなかったことに気づき、新たな歩みに繋がるかもしれません。

新型コロナウイルスの蔓延が、これほどまでに拡大し長期化するとは思わなかった。開催予定の事業は、青森市民図書館の対応策に準じてそのつど判断、対外的に告知を要するものは、ほとんど中止となりました。



青森市の子どもの読書推進を支える「リユース・Books」

新型コロナウイルスの蔓延が、これほどまでに拡大し長期化するとは思わなかった。開催予定の事業は、青森市民図書館の対応策に準じてそのつど判断、対外的に告知を要するものは、ほとんど中止となりました。ただし、ボランティアで運営し

ている「リユース・Books」は、安全に配慮しながらできるだけ開催しました。「リユース・Books」は、図書館移転とともに青森市読書団体連絡会がいつさいの運営をゆだねられた事業で、可動式書架のある一室は図書館と同じフロアにあります。行政が循環型社会を標榜したのと「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定が重なった時期に開設されました。リユース手数料は、子どもの読書推進に当てられ、講演会など多くの事業に取り組んでいます。そのひとつが、小学校教育研究会図書館部会と市民図書館とともに、それぞれが役割を担い続けている「風のはこんだおはなし会」です。保護者も交えた三者での懇話会を経て、市内小学校へおはなし、読み聞かせ、ブックトークや貸出、テーマ本の寄贈をしてきました。コロナ禍での中断は憂慮すべき事態です。

活動者のやりがいは、授業の形で「生きる力」を育む読書の目的を共有している実感です。質の向上に努める過程が生徒学習に繋がります。図書館と共催で市民への活動者養成講座を定期的に行い、活動の輪を広げ、技術ではなく意義を理解しながら学習し、実践することを大切にしてきました。子どもたちの読書活動は環境により、つねに変化しているもの。すから、学校で先生は、保護者はどのようにとらえているのか、図書館はどう対応しているのか、それらを踏まえてどんな活動が望ましいのかを把握しなくてはなりません。加えて出版界の反応も、もっぱら関心事です。その年のテーマ本を決めるのも、限られた冊数の貸出を選書するためにも豊かな情報に欠かせません。図書館司書と一体の作業です。育ちゆく魂に響く本を届けたいものです。「風のはこんだおはなし会」開催中止の代替として、会員と図書館司書の選書でブックリストを作成して、市内の全小学校児童へ配布しました。会員からは紹介文と対

面のブックトークは異質だと知る機会であったとの意見もあり、課題となりました。

「地域に身近な読書活動」のいま！

まだ当地に公共図書館がなかったころ、行政主導で配本所設置されたのが「地域に身近な読書活動」の始まりです。生涯学習時代となり市民図書館の開館を機に、図書館利用の促進と自己啓発を旨とし、巡回文庫を預かっていたメンバーで立ちあげたのが読書団体連絡会でした。

感染拡大で、市民センターごと「おはなし会」も市有施設が閉じられ実施不可となり、関連の保育施設や放課後児童会などの活動にも影響して退会者も増えて残念です。しかし地区活動者たちは、グループ学習会を開くなどに切り替えて意欲維持に努めました。

アンケートなどからもわかりましたが、仕事や介護、子育てに携わりながらも、自己充実を求めて社会活動に関わりたい人が増えています。近場での活動を望まれていて、根本を踏まえた学びの楽しさが、「おはなし会」などの形で子どもたちへ読書を通じた成長を促す好機になると思われま。地域が見えにくくなっているいま



コロナ前の「おはなし会」。この光景が早く戻ることを望みます

からこそ、地域の特性に応じていろんなキャリア集団で「子どもの読書」を培っていかねるのではないのでしょうか。その効果は拙速を避け、情性や独善に陥らないために、ネットワークがもたらす情報は大事です。

コロナ禍でも、自身はときおり講座に招かれたり、ラジオ番組で絵本の朗読を続けましたが、これまでの日常が当然から、貴重な日常に変わったと自覚しています。

最近、小学校1年生から「天国はどこなのか」という質問があり、とつさのことに窮しました。いままその男の子の真剣な表情が甦ります。後年、あの時期は空白だったと嘆かないよう、足踏み状態で学び直しを試みては、再開に備えて疑問を溜めこんでいます。

優良読書グループの歩み (4)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

川本もくせい読書会

代表者 中村 和子

埼玉県深谷市

〈推薦〉
埼玉県読書推進運動協議会

1978年11月23日、本を読むのがなにより好きな女性が、町の呼びかけに誘われて集まり、町の木である金木犀から命名、川本もくせい読書会が発足しました。当時の会員は19名、現在は8名です。最初は毎月1回、会場は役場2階のロビーに、3台の書庫に並んだ本と雑誌、1台の閲覧機が設置された図書室でした。

初代代表は、田島壽子様と小原きよし様。指導は中学校の宇野彰校長先生にお願いしました、みんな同じ本を読み、発表。いろいろな感想ができました、感想に対する宇野先生の適切な指導を、みんな楽しく学んだのが最近のことのように思い出されます。たいへん

お世話になりありがとうございました。御三方は故人となられました、心からのご冥福をお祈りいたします。

1991年に川本町立図書館が建設され、蔵書数も増え、とても利用しやすくなり、読書会も裏の公民館を使用してきました。年数を重ねることに会員も高齢となり、減少してきました。その後は昼の食事を計画し、読書会を不定期に開催し、話しあっています。

最近では新型コロナウイルスによる自粛のため、集まることができませんで、貸出文庫新着案内から読書本の選定を会員に選んでいただき、私がまとめて図書館へ頼んでいます。本の入庫連絡が図書館から来たら取りにいき、各家庭に配本しています。各自読み終わったら感想をメモ書きして本に挟み、私の家に返本していただき、まとめて図書館に返しています。

読書会の内容は、意見交換、読書本の感想、会員の近況報告などです。地元の小北小学校、南小学校

の朝目習の時間に、学校の依頼日にあわせて月3回から4回、本の読み聞かせを各クラスで行っています。児童の笑顔が活力になり、勇気が出ます。

町のバスを利用し、会員相互の親睦を兼ね、日帰りで各地を訪ねる文学散歩を行ってきましたが、最近ではコロナによる自粛で中止になっています、また開催できるところを楽しみにしています。会員も高齢化により減少していますが、たいへん残念なことです。最近2名入会しました。うれしいことです。会員の健康と幸福を願い、みんなで協力しあつて、楽しい読書会「川本もくせい読書会」を続けていきたいと思います。



これからも、みんなで読書と会話を楽しんで

読みきかせ「ほたる」

代表者 和田喜代美

和歌山県海草郡紀美野町

〈推薦〉
和歌山県読書推進運動協議会

読みきかせ「ほたる」は1997年に「エプロンおじさん」として

和歌山県下の学校を回り、読み聞かせの活動をされていた別院清先生が当時の美里町の小学校での講演の際、参加していたお母さんたちに「読み聞かせのサークルを作りませんか」と声をかけられたのが始まりです。その後、町内のもうひとつの読み聞かせサークルと合流し、現在の「ほたる」に至ります。

合流して人数も増え、男性も加わったことで、読み聞かせの幅も広がり、地域の公民館で別院先生の指導の下、月1回のペースで例会を開催し、「子どもたちによい本を知ってもらいたい」「絵本の好きな子をいっぱいになりたい」の思いで練習を重ねていきました。当時は、町内小学校で開催される子どもたちの学習発表会に参加し、プロジェクターでスクリーンに絵本を映し出し、子どもたちを前に朗読していました。

現在は、紀美野町文化センターで毎年11月に開催される紀美野町文化祭で、町内の小中学校の子どもたちなどの児童生徒発表会に参加し、子どもから大人まで来場者を前に朗読しています。昨年は新型コロナウイルスの影響で、文化祭は中止となり、2年ぶりに参加できたことをメンバー一同喜んでいました。

また「ふれあいルーム」というイベントでは、読み聞かせの回に呼んでいただき、子どもたちを前に絵本を読み聞かせする機会を設けていただいています。

過去には、読み聞かせと科学遊びを合わせたイベントも開催しました。その中で印象的なのは「どろだんご作り」です。「どろだんご」は、泥を丸めて団子状にし、ピカピカに磨きあげた団子です。そのときは、ほかの地域のサークルと合同で開催したため参加者は大勢で、大人も童心に帰り、子どもと一緒に楽しんでいました。いまでも作った「どろだんご」を保管しているメンバーもいるほどです。これまでご指導をいただいていた別院先生が、2018年に突然他界されてからはメンバーだけで練習することになりました。いままでのように読み聞かせの技術向

上はできないかもしれませんが、メンバー一同、「子どもたちによい本を知ってもらいたい」「絵本の好きな子をいっぱいになりたい」という思いはこれまでと変わらずに、切磋琢磨しながら日々の練習に励もうと、今回の受賞を機会にその決意を新たにしています。

岡本ふれあい図書館

代表者 後藤 篤
大分県竹田市

〈推薦〉
大分県読書推進運動協議会

地区民が持ちよった約1万7000冊の本を活用して、「岡本ふれあい図書館」は2013年3月に、閉校したばかりの岡本小学校校舎を利用して産声をあげた。数年後に、同地区に竹田市公民館岡本分館建設の話が持ちあがり、ならば図書館機能を備えた分館にしてほしいと要望。幸い、市の理解もあり、それが実現した。玄関を入ると、そこは多目的スペースとしての機能をも備えた図書館となっている。当初の1万7000冊から、スペースの関係で厳選された約6000冊の図書がみんなを迎える。

図書館の運営は約50人の「図書館ボランティア」が担い、平日の午後1時から3時の間、貸出や返却のお世話をする。貸出期間は20日間といちおう決めてはあるし、貸出簿に記入することになってはいるものの、返却を忘れてもおとがめなし、自分の本を間違えて返却?してもよし。運営はあくまでゆる〜く。年間600冊以上が貸し出されている。

無作為に並べられた本の中から自分の読みたい本を探すのは、楽しみでもあるが不便でもある。ボランティアメンバーで書籍の種類を試みてみたものの、とても不可能。ならば、せめて新しく供給した本がどこにあるかわかるようにしようとして、「市立図書館団体貸出コーナー」と「ふれあい新刊書(新寄贈図書)コーナー」を作った。市立図書館団体貸出コーナーは、市立図書館の団体貸出制度を活用して、3か月に1回、約100冊の本をボランティアが選んで借りてくるもの。ふれあい新刊書コーナーは、新しく寄贈いただいた本をまとめたもの。図書館の常連さんは、まず、このコーナーを見る。

地区の人たちが本に接する機会をいかにして作るか。いつも模様中である。たとえば、市立図書館

の読み聞かせボランティアさんの力を借りての高齢者を対象とした読み聞かせ会、各自治会の集会所への団体貸出など。

そんな話の中から出た、J R豊後竹田駅の待合室に設置した「岡本ふれあいリサイクル文庫」。300冊あまりの本を並べてあり、ボランティアが当番制で月に1〜2回、本の何冊かを入れ替えるというもの。お持ち帰りもご寄贈も自由です、というのがうけたのか、書棚の本も増えたり減ったり。けっこう活用されている。

いま取り組み始めたのは、図書館に関心を持つ人たちのゆる〜い組織づくり。「1年に1回でも図書館のことを思ってくれたら、それであなとも会員です」。うまくいくなあ。(文:副館長 大塚広)

串木野小学校読み聞かせグループ「花さき山」

代表者 尾場瀬ちなみ
鹿児島県いちき串木野市

〈推薦〉
鹿児島県読書推進運動協議会

2005年度に、いちき串木野市立串木野小学校の家庭教育学級で、絵本の読み聞かせについて学ぶ機会が数回ありました。翌年に

ズラリと並んだ手袋人形の楽しいおはなし会



は、学校全体で一斉に読み聞かせを実施することになり、保護者への協力の呼びかけがもたらした。て、「花さき山」が発足しました。当時の会員は保護者だけでしたが、徐々に輪が広がり、現在は、保護者・OB・地域住民で構成されています。

小学校でのおもな活動は、月2回程度の「朝の読み聞かせ」と、特設の「おはなし会」です。夏休み親子おはなし会では、小学生や父親に加えて、卒業した中高生も読み手になります。11月の読書月間おはなし会は、2日間にかけて実施します。学年別に選んだ絵本の読み聞かせや朗読、パネルシアター、手作り人形劇などは、子ども

たちだけでなく、先生方にも喜ばれています。そのほか、特別支援学級おはなし会、さのさ集いおはなし会も行います。

また、市内外の保育園や幼稚園、小中学校、子育て支援センター、福祉施設などでの「出前おはなし会」や、県内各地の研修会に講師を派遣するなど、年々、活動の幅が広がっています。会員の資質の向上を目指し、県立図書館の講師派遣事業を利用したり、会員や地域の学校司書を講師にしたりして、学習会に多くの会員が参加できるようにしています。

おたがいの貴重な時間を使う読み聞かせを、意義あるものにする選書がいちばんの悩みですが、選んだ本の世界に浸って楽しむ子どもたちの姿は、大きな喜びになります。特にうれしかったのは、中学校の生徒会長から、「もう一度観たい」と依頼され、生徒会主催のイベントで、朗読と人形劇を行ったことです。小学校時代に心に蒔いた種が花を咲かせたようで、喜びに包まれ、さらなる意欲をかきたててくれました。

今後、心通いあう読み聞かせの時間を子どもたちとともに楽しみたいと思います。

2022・第76回読書週間

ポスターイラスト募集

標語は「この一冊に、ありがとう」



2018年 さとうみずずさん



2020年 なかいかがりさん

秋の「読書週間」のシンボル、ポスターのイラストを募集します。

賞

・大賞(1名)……賞状と賞金10万円

・優秀賞(3名)……賞状と賞金1万円

・入選(10名前後)……記念品(図書カード)

応募要項

①標語「この一冊に、ありがとう」をイメージした未発表の創作原画

*「読書週間」などの文字情報は作品に入れないこと

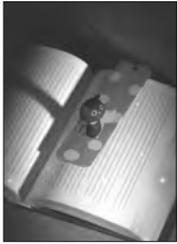
②サイズB4判、タテ

③用紙・画材自由

④CG作品はプリントアウトしたもの

⑤カラー、モノクロとも可

⑥立体、半立体、写真、コピーは不可



2019年 富山涼太さん



2021年 しらいたまもさん

⑦応募資格 高校生以上。合作は可だが、応募はひとり1点

⑧ハガキ大の用紙に以下を明記し、作品の裏面に添付のこと

氏名、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業、メールアドレス(任意)

⑨応募締切 6月24日(金)必着

⑩送り先・問い合わせ先
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町1-32 出版クラブ
ビル6階

公益社団法人読書推進運動協議会
「読書週間ポスターイラスト」係
TEL 03-5244-5270

⑪発表 8月上旬、入賞者に通知

⑫入賞作の二次使用権は公益社団法人読書推進運動協議会に帰属

⑬作品は返却しません。ただし、返却希望の方はその旨を明記し、着払い伝票(必要事項記入、ゆうパックに限る)を同封のこと

事務局報告(3月)

・1日 上野の森親子ブックフェスタ 運営委員会出席(ビデオ会議)

☆4日 岡部公認会計士・税理士・行政書士事務所と2021年度決算報告書作成打ち合わせ

☆4日 内閣府に2022年度事業計画書・収支予算書提出

・4日 上野の森親子ブックフェスタ2022 出版者説明会出席

☆7日 機関紙「読書推進運動」652号入稿

☆8日 機関紙「読書推進運動」652号責了

☆9日 「第64回」こともの読書週間」ポスター出来、順次発送開始

・9日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成贈呈」出席(オンライン)

☆15日 機関紙「読書推進運動」652号出来

・17日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」本年度応募要項を関係者ほかへ発送

・17日 上野の森親子ブックフェスタ「読書の日」ポスターについて打ち合わせ

・22日 上野の森親子ブックフェスタ 運営委員会出席

・23日 上野の森親子ブックフェスタ 運営委員会出席(ビデオ会議)

・24日 文部科学省へ「子ども読書の日」ポスター制作作業終了の報告を提出

・25日 文部科学省に令和4年度「読書活動推進事業」審査表を提出

・30日 上野の森親子ブックフェスタ「読書の日」ポスターについて打ち合わせ

・30日 上野の森親子ブックフェスタ2022 開催挨拶・協賛依頼のため、一般財団法人日本児童教育振興財団を訪問

編集部より

5月発行の「読書推進運動」第64号は、ゴールデンウィーク前後の印刷・物流状況の影響で5月17日出来を予定しています。

編集部 & 事務局のひとこと

●巻頭に登場いただいた広松由希子さんの『日本の絵本100年100人100冊』(玉川大学出版部)は、さまざまな読み方を業しめる一冊です。選書リストとしてはもちろん、日本の絵本の歴史ガイドとして、絵本作家のエピソード集として……私は、「この絵本(作家)に影響を受けたのが○○さん」とあれば、両者のページを見比べ、また、現物を手に取りたくなった絵本に出会ったら、書店の在庫や図書館の蔵書を検索したりと、寄り道しながら、ゆっくり読みました。

●加えて、広松さんがその絵本を読んだときの感動、子どもたちと絵本を読んで過ごしたあたたかい思い出までも紹介されているものですが、「私もこの本読んだとき、こう思った!」「そうそう、子どもはここの本大好きなのよね」と、自分の思い出にまで寄り道はおよびました。絵本より読みもの中心で読んできた私でこれですから、絵本好きの人にはなおさら、たまらないのでは?

●地元図書館の蔵書を検索したら、1920〜40年代の絵本も、復刻版が貸出可能! (広松さんの選書基準「古書で手にとりやすいものが大半」は事実です)。各読進協からいただく「読書週間・こともの読書週間(行事報告)」でも「復刻版の展示」が多く、図書館では復刻版の収集をしていることは知っていたのですが、ふつうに借りられることに驚いています。さっそく、貸出予約をし、絵本三昧の「こともの読書週間」にしようと思われました。(伸)